

4コマ漫画の活用！

立花千尋 Tachibana Chihiro
(長浜バイオ大学)



『対訳よりぬきコボちゃん—(1)(2)(3)』
(© 植田まさし, 講談社インターナショナル刊)

今回は、4コマ漫画を英語授業で活用して、英語に興味を持たせ、できればクリエイティブ・ライティングまで発展させることを考えてみます。中学生に相応しいレベルの英語対訳付きの4コマ漫画をいくつか紹介します。

まず、検定教科書にも用いられた読売新聞に連載中の「コボちゃん」です。『対訳よりぬきコボちゃん』(植田まさし, 講談社インターナショナル刊)があります。特長は、吹き出しに英語、そのコマ横に日本語を配した対訳形式になっています。状況が明確に設定され、感情表現や相槌の打ち方がよくわかり、家庭を舞台とした日常生活の「生きた」英語が学べます。その他に、国民の人気漫画「サザエさん」の『対訳サザエさん』(長谷川町子, 講談社インターナショナル刊)などがあります。4コマ漫画活用の利点として、以下のことが考えられます。

① 日常よく用いられる語彙や表現

何と言っても日常生活で起こりうる身近な表現の宝庫となっています。また、教科書には出てこない相槌表現、擬態語、擬音語、豊かな感情表現をたくさん学ぶことができます。

② 親しみやすく楽しい内容

中学生の年代は漫画が大好きです。その大好きな漫画を通して英語を楽しく学ぶことができます。

③ 豊かな自己表現力

自分の思いや考えを漫画に投影させることによって、自己表現の抵抗感を取り除き、漫画の主人公になり代わって思う存分、自分の夢や主張を自己表現できるようになります。

④ 着想や創造力の高まり

英語の創作4コマ漫画に取り組ませることによ

て、読み手を楽しませるために、ストーリーの展開や題名、そして4コマの場面構成についてよく考え、“アッ”と言わせる「オチ」で締めくくろうとするなど、英語を通して創造力を養うことができます。

次に、4コマ漫画の授業での使い方について紹介します。題材を選ぶ際の留意点として、語彙、文型・文法はなるべく既習のものであることが望ましいです。漫画の内容、特にトピックや「オチ」が中学生に理解可能であり、興味をひくものであることが重要なポイントとなります。

次に、筆者が前勤務先(神戸大学発達科学部附属住吉中学校)で行った、授業での4コマ漫画の活用の実例を紹介します。日々の授業の中で、投げ込み教材としても活用できますが、おもに「選択教科の時間」で取り組ませていました。

まず、楽しく読むことから始めます。起承転結の展開を意識しながら、最後の「オチ」を楽しめるように読解を進めます。次に、吹き出しを空白にしたイラストだけの4コマ漫画と、ランダムに並べた英文とのマッチングを行います。次の段階として、吹き出しの最初の1コマ目だけを与え、残りのコマを創作させ、原作と比較してみて、類似点や相違点を確認します。時には原作を上回る作品も出てきます。さらに、発展的な活動として、全くの自由展開である創作4コマ漫画に取り組ませることもできます。

4コマ漫画は、場面やコンテキストを大切にしておき、日常的な表現を用いているので、英語授業での活用によって、本格的なクリエイティブ・ライティングへの橋渡しとなり、実践的コミュニケーション能力の育成にとっても有効であると考えます。